

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新島学園短期大学
設置者名	学校法人 新島学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	キャリアデザイン学科	夜・通信			8	8	7	
	コミュニティ子ども学科	夜・通信			9	9	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.niitan.jp/about/disclosure/?other=page-7

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新島学園短期大学
設置者名	学校法人 新島学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://houjin.niijima-gakuen.jp/disclosure/pdf/jigyohokoku_25.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	大学名誉教授（現職）	2025年6月7日～ 2029年度定時評議員会 終結の時まで	法人運営 キリスト教主義教育の 推進
非常勤	金融機関理事長 （現職）	2025年6月7日～ 2029年度定時評議員会 終結の時まで	法人運営 財務、地域連携の推 進
非常勤	元大学教授・専門 学校評議員（現職）	2025年6月7日～ 2029年度定時評議員会 終結の時まで	法人運営 建学の精神、包括連 携事業の推進
非常勤	学校法人職員（現 職）	2025年6月7日～ 2029年度定時評議員会 終結の時まで	法人運営 学園全体構想、人材 育成、事業法人の推 進
非常勤	日本基督教団牧師 （現職）	2025年6月7日～ 2029年度定時評議員会 終結の時まで	法人運営 地域教会との協働
非常勤	飲食サービス業代 表取締役（現職）	2025年6月7日～ 2029年度定時評議員会 終結の時まで	法人運営 同窓会/PTA/地域連 携の推進
非常勤	日本基督教団牧師 （現職）	2025年6月7日～ 2029年度定時評議員会 終結の時まで	法人運営 地域教会との協働、 キリスト教主義教育 の推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新島学園短期大学 (キャリアデザイン学科・コミュニティ子ども学科)
設置者名	学校法人 新島学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 前年度の2月から各科目の担当教員にシラバスの作成を依頼し、webにて4月から閲覧可としている。シラバスには以下の内容を記載している。	
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 講義名 ▪ 科目群 ▪ 科目区分等 (当該科目の教育課程内の位置づけ) ▪ 対象学年次 ▪ ナンバリング ▪ 担当教員名 ▪ 授業形態 ▪ ICT 活用の有無 ▪ 授業のキーワード ▪ 授業の概要 ▪ 期待される学習成果 (目標) ▪ 授業展開 (テーマ、授業内容、事前学修、事後学修) ×15 回分 ▪ 定期試験 ▪ 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法 ▪ 評価方法 ▪ 使用する教科書 ▪ 参考文献 ▪ オフィスアワー 	
授業計画書の公表方法	https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定（成績評価）は、指定校編入学学内選考資料、奨学金受給要件などにも利用している。日々の授業における説明と整合性のある評価基準により、担当教員の責任で慎重に評価している。なお、成績評価は本学の教育水準を外部に公表するものであり、高等教育機関として最低水準のレベルに達していないと判断される場合は、「不合格」としている。

●成績評価の基本方針

成績の評価方法は絶対評価であり、教員の裁量に委ねられているものであるが、履修学生が少ない科目や演習科目などの場合を除き、成績評価の結果が極端に偏ることのないような評価を原則とする。

●成績評価の要素

成績の評価は、定期試験の結果だけでなく、授業でのミニテスト等の結果、授業への参加態度、発言内容など、多様な要素を考慮して行う。

●厳格公平な評価

安易な S・A 評価の乱発を避け、厳格公平な評価を行う。授業出席回数が 3 分の 2 に満たない場合は、定期試験を受験させない。

●GPA 分布表

毎学期末、学務課が作成した GPA 分布表を学生に公表する。

●成績問い合わせ

各学期成績発表後 1 週間のうちに、学生から「成績問い合わせ申請書」が提出された場合、各教員は回答しなければならない。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

[区分]：合格

評価	評点	GP	GP 対象	評価内容
S	80～100 点	4	○	特に優れた成績
A		3	○	優れた成績
B	70～79 点	2	○	妥当と認められる成績
C	60～69 点	1	○	合格と認められる最低限の成績

[区分]：不合格

評価	評点	GP	GP 対象	評価内容
E	40～59 点	0	○	合格と認められる最低限の成績に達していない成績「再試験資格有」
F	0～39 点	0	○	合格と認められる最低限の成績にはるかに達していない成績(出席回数が 2/3 未満、定期試験を未許可で欠席含む)「再試験資格無」

[区分]：保留

評価	評点	GP	GP 対象	評価内容
R	一時表記	-	×	正当な理由で定期試験未受験で、追試験の許可を得た科目「追試験資格有」

[区分]：放棄

評価	評点	GP	GP 対象	評価内容
W	履修放棄	-	×	休学のため当該学期に履修できない科目

[区分]：認定

評価	評点	GP	GP 対象	評価内容
P	単位認定科目	-	×	他大学等で履修した科目の単位を本学の単位として認定した科目

GPA 算出方法 = $\frac{4 \times S \text{ の単位数} + 3 \times A \text{ の単位数} + 2 \times B \text{ の単位数} + 1 \times C \text{ の単位数}}{\text{総履修単位数 (R・W・P を含まない)}}$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学に2年以上在籍して、所定の科目を履修し、キャリアデザイン学科は68単位以上、コミュニティ子ども学科は65単位以上を修得した者について、教授会の意見を参考にして、学長が卒業を認定する。</p> <p>ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)</p> <p>キャリアデザイン学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神や教育のモットーを理解している。 2 社会人に必要な教養・知識・技能を身につけている。 3 [4年制大学進学希望者の場合]4年制大学の学修に必要な知識・技能を身につけている。 4 社会に貢献するための資格を取得している。 5 選択的な学びによる専門的な知識・技能を身につけている。 6 知識・技能を生かし、深く考察し、適切に判断することができる。 7 批判的思考力を養い、自らの使命を探索し専門的な学びを深めることができる。 8 必要な情報を収集・分析し、それらを適切に表現することができる。 9 信念に基づく行動をし、地域社会に貢献することができる。 10 知識・技能を踏まえて、自らのキャリアを主体的に設計することができる。 11 多様な人々と共生するために、コミュニケーション力と協働の姿勢を身につけている。 <p>コミュニティ子ども学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神や教育のモットーを理解している。 2 社会人に必要な教養・知識・技能・マナーを身につけている。 3 保育の専門的な知識・技能を修得し、保育を実践することができる。 4 地域の課題を理解し、知識・技能を活かして解決に貢献することができる。 5 選択的な学びによる専門的な知識・技能を修得している。 6 保育の課題について考え、知識・技能をもとに判断し、表現することができる。 7 責任感や使命感を持ち、保育者として実践していこうとする主体性がある。 8 保育者に必要なコミュニケーション力を身につけ、他者と協働することができる。 9 社会における自分の役割を自覚し、地域社会に貢献することができる。 <p>卒業の要件</p> <p>キャリアデザイン学科</p> <p>本学に2年以上在学し、所定の科目を履修し、卒業に必要な履修単位(68単位以上)を修得することが必要となる。</p> <p>コミュニティ子ども学科</p> <p>本学に2年以上在学し、所定の科目を履修し、卒業に必要な履修単位(65単位以上)を修得することが必要となる。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新島学園短期大学
設置者名	学校法人 新島学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://houjin.niijima-gakuen.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://houjin.niijima-gakuen.jp/disclosure/
財産目録	https://houjin.niijima-gakuen.jp/disclosure/
事業報告書	https://houjin.niijima-gakuen.jp/disclosure/
監事による監査報告(書)	https://houjin.niijima-gakuen.jp/disclosure/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.niitan.jp/about/disclosure/?other=page-7

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 キャリアデザイン学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.niitan.jp/about/disclosure/) (概要) キャリアデザイン学科は、建学の精神に基づき、みずからの使命を真摯に探求し、信念に基づく行動を行い、他者の思想や価値観を尊重する社会に有意な人材を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2#dpAnchor) (概要) 1 建学の精神や教育のモットーを理解している。 2 社会人に必要な教養・知識・技能を身につけている。 3 [4年制大学進学希望者の場合] 4年制大学の学修に必要な知識・技能を身につけている。 4 社会に貢献するための資格を取得している。 5 選択的な学びによる専門的な知識・技能を身につけている。 6 知識・技能を生かし、深く考察し、適切に判断することができる。 7 批判的思考力を養い、自らの使命を探求し専門的な学びを深めることができる。 8 必要な情報を収集・分析し、それらを適切に表現することができる。 9 信念に基づく行動をし、地域社会に貢献することができる。 10 知識・技能を踏まえて、自らのキャリアを主体的に設計することができる。 11 多様な人々と共生するために、コミュニケーション力と協働の姿勢を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2#pageAnchor) (概要) 1 本学の教育の根幹であるキリスト教についての基本的な理解が得られるための授業科目や活動を配置している。 2 専門的な学びの基盤となる知識・技能・能力を身につけるために「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。 3 社会人に必要な日本語力や情報スキル、教養を修得するための科目を配置している。 4 言語や文化を英語で学ぶ英語イマージョンの科目を含む実践的な英語コミュニケーション力を身につける英語の科目グループを配置している。 5 歴史、文学、文化、日本語、韓国語などの専門的な知識・技能を身につける人文科学の科目グループを設置している。 6 政治、経済、法律、経営、キャリアなどの専門的な知識・技能を身につける社会科学の科目グループを設置している。 7 情報などの専門的知識を身につける自然科学の科目グループを設置している。 8 「食」に関する専門的知識を身につけるフードの科目グループを設置している。 9 将来の進路に必要とされる資格の科目グループを配置している。 10 キャリアデザイン専攻ではコース制を採用し、自らキャリアデザインに合った学びができるように体系的に授業科目を配置している。また、フードビジネス専攻では「食」の現場から学ぶためにフィールドスタディの授業科目を配置している。 思考力・判断力 11 各自の興味・関心や課題を探究することができるように「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を配置している。 12 地域社会に貢献する力を身につけるための授業科目を配置している。 13 自らのキャリアを主体的に設計するのに必要な授業科目を配置している。

14 コミュニケーション力と協働の姿勢を身につけるのに必要な授業科目を配置している。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.niitan.jp/about/disclosure/?admission=page-4#dpAnchor)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高校で学習した知識・技能を具体的に示すことができる。 2 自分の将来に必要とされる知識・技能を修得する意欲がある。 3 幅広い学びに関心を持ち、学びをもとに自らの適性を考えることができる。 4 高校で学習した内容をもとに、自らの意見を明確に表現できる。 5 多様な人と接しながら、自らの成長を図るために主体的に協働し、学習活動等に取り組む意欲がある。

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 コミュニティ子ども学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.niitan.jp/about/disclosure/)</p>
<p>(概要)</p> <p>コミュニティ子ども学科は、建学の精神に基づき、地域社会に貢献しうる保育士と幼稚園教諭を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2#dpAnchor)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神や教育のモットーを理解している。 2 社会人に必要な教養・知識・技能・マナーを身につけている。 3 保育の専門的な知識・技能を修得し、保育を実践することができる。 4 地域の課題を理解し、知識・技能を活かして解決に貢献することができる。 5 選択的な学びによる専門的な知識・技能を修得している。 6 保育の課題について考え、知識・技能をもとに判断し、表現することができる。 7 責任感や使命感を持ち、保育者として実践していこうとする主体性がある。 8 保育者に必要なコミュニケーション力を身につけ、他者と協働することができる。 9 社会における自分の役割を自覚し、地域社会に貢献することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.niitan.jp/about/disclosure/?study=page-2#pageAnchor)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本学の教育の根幹であるキリスト教についての基本的な理解が得られるための授業科目や活動を配置している。 2 専門的な学びの基盤となる知識・技能・能力を身につけるために、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を配置している。 3 社会人として必要な日本語力や情報スキル、教養、マナーを身につけるために、「教養科目」を配置している。 4 保育の専門的な知識・技能を身につけられるように専門科目に「保育の本質・目的」、「保育の対象の理解」、「保育の内容・方法」、「実習」、「総合演習」を構成している。 5 地域に貢献する人材の育成を目指した教育内容として、1年次に「地域と子ども」、2年次に「子育て支援」を配置している。 6 保育者として必要とされる技能やスキルを身につけられるように授業科目だけでなく課外活動も含んだ特色ある取り組みを実施している。 7 コース制により自らの興味・関心に応じた専門的な学びを配置している。

- 8 自らの課題や興味・関心をもとに探求することができるように、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を配置している。
- 9 地域社会に貢献する力を身につけるための授業科目を配置している。
- 10 他者と協働する力を身につけるための授業科目を配置している。
- 11 主体性を身につけるための授業科目を配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 : <https://www.niitan.jp/about/disclosure/?admission=page-4#pageAnchor>)

(概要)

- 1 保育の知識を学ぶために必要な高校卒業程度の基礎的な学びを有している。
- 2 保育実践を学ぶための基礎となる学力・技能を有している。
- 3 保育に興味を持ち、基礎的な思考力・判断力を有している。
- 4 他者に伝えるためのコミュニケーション力・表現力を有している。
- 5 保育者として子どもと関わることに対して、興味と意義を有している。
- 6 自らの成長を図るために主体的に学ぶ意欲を有している。
- 7 地域社会に貢献するために、多様な価値観を尊重し、他者と協働して学ぶ意欲を有している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <https://www.niitan.jp/about/disclosure#disclosure-4>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
キャリアデザイン学科	—	3人	1人	5人	人	人	9人
コミュニティ子ども学科	—	7人	人	人	人	人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		44人					44人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.niitan.jp/department/career-design/ https://www.niitan.jp/department/community-children/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
キャリアデザイン学科	130人	93人	71.5%	260人	157人	60.4%	人	人
コミュニティ子ども学科	50人	33人	66.0%	100人	71人	71.0%	人	人
合計	180人	126人	70.0%	360人	228人	63.3%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
キャリアデザイン学科	94人 (100%)	33人 (35.1%)	55人 (58.5%)	6人 (6.4%)
コミュニティ子ども学科	45人 (100%)	1人 (2.2%)	42人 (93.3%)	2人 (4.4%)
合計	139人 (100%)	34人 (24.5%)	97人 (69.8%)	8人 (5.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業期間は春学期と秋学期の2学期に分かれ、それぞれ15週実施。 教育上必要な授業科目（必修科目、選択必修科目、選択科目、幼免必修科目及び留学生限定科目）が2年間の完結教育として位置づけられ、体系的に編成されている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>卒業のためには、本学に2年以上在学し、所定科目を履修し、卒業に必要な履修単位（キャリアデザイン学科：68単位、コミュニティ子ども学科：65単位）を修得することが必要である。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	キャリアデザイン 学科	68 単位	有・無	単位
	コミュニティ子ども 学科	65 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.niitan.jp/life/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	キャリア デザイン 学科	620,000 円	250,000 円	380,000 円	教育研究振興費 施設設備費
	コミュニ ティ子ど も学科	650,000 円	250,000 円	440,000 円	教育研究振興費 施設設備費 実習費
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1年生ゼミ (Fゼミ)、2年生ゼミ(Aゼミ)の担当教員が相談に応じている。 専任教員はオフィスアワーの時間帯も設けている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ゼミ担当教員、進路支援課が中心となり、進路全般にわたる相談を受け付け、就職、進学に関する支援を行っている。 就職支援 進路ガイダンスを1年次秋学期から2年次春学期にわたり実施し、VPI 職業興味検査、就職総合テスト、就職情報サイトへの登録、企業研究、話し方講座、メイクアップ講座等を行っている。また、進路支援課では、エントリーシート・履歴書の添削、面接練習を行っている。 進学支援 四年制大学編入希望者には補習、面接練習を行っている。また、進路支援課では、編入学試験の過去問題や受験報告書を閲覧することができる。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生のような悩みの相談を受けるために学生相談室を開設している。臨床心理士・公認心理師(カウンセラー)が秘密厳守で相談に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.niitan.jp/about/disclosure/?teacher=page-3
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F210310101889
学校名 (〇〇大学 等)	新島学園短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 新島学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		33人 (0) 人	32人 (-) 人	35人 (-) 人
内 訳	第Ⅰ区分	22人	19人	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0 人)	
	第Ⅱ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0 人)	
	第Ⅲ区分	-	-	
	(うち多子世帯)	(0 人)	(0 人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	0人	-	
区分外 (多子世帯)	0人	0人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				0人 (0) 人
合計 (年間)				35人 (-) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	—
計	人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期 後半期
GPA等が下位4分の1	人	—	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期 後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。